

地域社会との連携目指す クライシスマネジメント協議会

クライシスマネジメント協議会 専務理事

長田 逸平



1 設立の目的

生命維持に関わる下水道事業のような社会インフラは、クライシスマネジメントの重要なテーマであり、この認識に立ってクライシスマネジメント協議会について少し紹介させていただく。

我が国は、自然災害の危機と社会インフラ老朽化の危機、および社会システムの制度疲労が重なりあって極めて危険な状態にあり、危機管理態勢の強化、再構築が急務である。

近い将来に起こることが想定されている大規模な地震災害への対策は言うに及ばず、近年頻発している水害や新種のウイルスによる感染症流行への対策、さらにはテロの脅威への対策等々、従来の危機管理では不十分であることが明らかになっ

ている。

このような事態に対処するための官民連携の組織を民間主導でつくることを目的として、「クライシスマネジメント協議会」（石原信雄会長、URL：<http://www.crisis-manegement-conference.org/>、略称:CMC）が平成22年9月28日に東京・千代田区の日本工業倶楽部において設立された。

本協議会は、危機に対処するためには社会のあらゆる組織・機能が連携することが必要であるとの考えから、すべての産業・企業、行政機関、特に地方公共団体および市民が連携することが必要であり、官と民、民と民、官と官の連携を標榜して、その組織化を図ろうとするものであり、クライシスマネジメント協議会は社会生活全般、経済活動



設立総会のもよう



挨拶する石原会長